



発行責任者 山元俊憲
昭和大学薬学部
東京都品川区旗の台1-5-8
電話：03-3784-8000 (代)

昭和大学薬学部の教育と研究についての情報です。

THE FOUNDING SPIRIT 建学の精神

至誠一貫
昭和大学は、薬学部のほか、医学部、歯学部、保健医療学部からなる日本で唯一の本格的医系総合大学です。本学の建学の精神「至誠一貫」は、真心を持って患者さんに尽くすことを意味します。薬学部では、患者さん中心の医療を実践するヒューマニズムあふれる薬学専門家の養成を目指します。

表題の「薬と学ぶ」は、薬についての知識を学習するだけでなく、その知識を持ちながら、薬についてのプロフェッショナルという専門性を生かしてチーム医療の中で患者さんに対応する能力を学ぶという意味を表現したものです。

E D U C A T I O N 教育

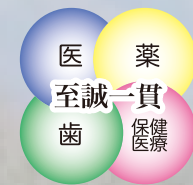
PBLって？
PBLは「Problem Based Learning」の頭文字をとったもので、複数の学生がグループになって、出された課題に対してどこに問題があるかを見つけ、それを学習項目として設定し、各々の学生がその項目に関連する情報を本・インターネットなどを用いて調べ、その情報を持ち寄りグループ全員が共有して問題を解決して行く学習方法です。PBLは、チームワークを養い効率的に学習を行うことができるとして、医療系学部では取り入れる大学が増えてきています。

PBLは以下のようなステップを踏んで、効率よく勉強を行います。

- ① 提示された**患者さんの情報**を読んで、分からない言葉や興味のある事柄など**重要な情報(キーワード)**をグループ全員で自由に出し合いホワイトボードに書き出す。
- ② ホワイトボードに書き出したキーワードを見ながら、**この患者さんの問題点は何か？**を見つけ出し、それを解決するために勉強しなければならない**学習項目**を自分達で決める。
- ③ 図書・専門誌・インターネットなどを使って、**各自が責任もって自習**を行い、勉強してきた内容を順番にグループの人に説明して**学習内容を共有する**。
- ④ グループ全員で学習した内容をもとに、この患者さんの問題点を解決するためにどうすればよいか、**具体的な案をまとめる**。
- ⑤ 自分達の班でまとめた案をスライドにして、他のグループの人たちの前で発表する。また、他のグループの発表を聞いて疑問に思ったところを質問・討議する。



昭和大学では、学習の段階でチーム医療を実践しようとする試みとして、医、歯、薬、保健医療学部の学生が一緒になり、個々の患者さんを中心とした治療を考える**4学部横断PBLチュートリアル**を行っています。



参加学生の声

- ☆自分で学んできた専門知識がチーム医療になったときのように活かされるかがわかってとても良かった。また、チームが連携することにより、より質の高い医療を提供できたと感じた。(薬)
- ☆一つの事象をとって見ても、それぞれの視点から見ると見方が全く異なるものだと思います。また、それぞれの知識を合わせることで、1つの問題に対して色々なアプローチができたことがおもしろかった。(医)
- ☆どの学部も自分の学部について調べるところをしっかりとやっていて感心したし、自分が学習をこれからするのことも役立った。(歯)
- ☆非常に良い機会だと感じた。実際に臨床で行われているカンファレンスのようで、貴重な体験ができたと感じた。さまざまな考え方、視点を見ることができて勉強になった。(保)

研究室探訪 生薬学・植物薬品化学教室

<http://www10.showa-u.ac.jp/~ppchem/>

当教室は、天然由来の薬である生薬、それを数種混ぜた漢方薬、そして食品など、みなさんにとっても身近なテーマで研究を行っています。ここでは、その一例をお話します。



鳥居塚 和生 教授

身近な植物・食品も薬になる！！ (括弧内は生薬の名前)



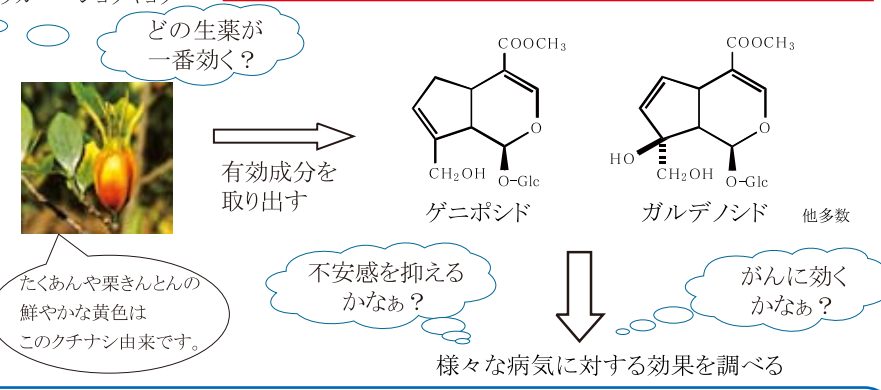
生薬(しょうやく)とは主に動物・植物・鉱物の薬用となる部分(根や葉など)を乾燥などの簡単な加工を施して作った薬のことです。右図のように、私たちの身近にある植物や食品も立派な生薬となるのです。また、この生薬を数種類混合したものが漢方薬と呼ばれるもので、代表的なものに葛根湯(かっこんとう)や小柴胡湯(しょうさいこうとう)などがあります。

加味逍遙散の構成生薬(基原の植物)



例えば、更年期の不安やのぼせなど、主に婦人科の病気に用いられる“加味逍遙散(かみしょうようさん)”という漢方薬には、シャクヤク、ハッカなど10種の生薬が配合されています(左図)。しかし、「なぜ、10種類もの生薬を混ぜるのか?」、「なぜ不安を和らげる作用があるのか?」、「どの生薬が最も効果があるのか?」といった多くの謎があります。我々は、この謎を解明し、“漢方薬のエビデンス(根拠)の確立”、“より身近でわかりやすい漢方”を目指しています。

病院や調剤薬局でもらう薬の中には、有効成分が天然由来である薬が意外に多く存在します。我々は、生薬や薬用植物に含まれる成分を純粋な形で取り出し、がんやアレルギー、生活習慣病に対する有効性を検討することで、新規医薬品開発への第一歩となる基礎研究も行っています。



卒業生の声

- 村杜知美 (平成16年卒)
私は卒業後、大学院に進学し生薬学教室で研究を行いました。毎日、研究テーマについて悩み考えながら、ものの見方、考え方を学びました。今は小さな病院で、薬剤師として患者さんのために何が出来るかと考えながら働いています。
- 諸井隆 (平成20年卒)
研究室では、認知症と漢方薬について研究をしていました。卒業後は、漢方を扱う保険薬局で働いています。漢方薬は、様々な生薬の薬効の組み合わせから生まれるものですから、学生時代に得た生薬の知識は、日々お渡しするお薬を通じて、患者さんの健康のために活かされています。

岩崎大剛 (平成17年卒)
学生時代は、勉強はもちろん、文化祭委員や部活動など様々な事に取り組み、卒業研究では薬用植物の成分研究に熱中しました。現在、製薬会社で医薬品・化粧品・健康食品に用いる植物原料の化学研究をしています。働く上で、大学時代の研究や薬学の専門知識などが非常に役立っているのを実感します。安全で体に良いヒット商品を作りだすという大きな夢を持って働いています。

I N F O R M A T I O N 情報

なんでだろう?

Q. 薬味としてもおなじみの生姜(しょうが)。なぜに効くといわれていますか、ナンデ?

この問題の解説は、以下のWEBサイトにあります。PCからアクセス <http://nyushi.showa-u.ac.jp/>



昭和大学薬学部 検索 Click!

ご意見、ご質問：昭和大学薬学部入試広報委員会
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8
昭和大学薬学部毒物学教室内 担当：沼澤 聡
numazawa@pharm.showa-u.ac.jp